

かさねの色目の花あそび No.26

【色目】 蝉の羽 <せみのは 表：檜皮色 裏：青>

もちろん夏の色目。平安人もセミを夏の風物詩として身近に感じていたのだろう。

花材は、枯れてしまった植木鉢の楓。左上にあの独特の形のまま縮まった葉っぱの部分、右下は根の部分。中間にしっかり立つ小粒の葉の緑はギンバイカ（銀梅花）。花



は梅に似た白色（その白を銀にたとえている）で、たくさんのもじゃもじゃしたおしべを伴って美しい。葉に香りがあることから、ギンコウバイ（銀香梅）とも。

かさねの色目の花あそび No.27

【色目】 落栗色 <おちぐりいろ 表：蘇芳黒味深シ 裏：香>

落ちた栗の実に目を向けるのも、いかにもかさねの色目らしい着眼。渋い色合わせだ。



花材は、作品左がモカラ（ランの人工属）と枯れた苔で、上から撮影。右の作品には枯れた実がついた紅葵の枝も仲間入り。ランの人工属には、こうしたモカラのほかのアランダがある。

かさねの色目の花あそび No.28

【色目】 女郎花 <おみなえし 表：経青緯黄 裏：青>

地味な花にして異臭を放つ、秋の七草の一つ、女郎花。表の経青緯黄（たてあおぬきぎ）の緑味の黄が花色を、裏の青が茎・葉を表す。



花材はオンシジウムとモンステラ。モンステラの葉は、一つは丸めていて、左は後景に、右は前景にそれぞれ配置。